



あれから一年

昨日の推薦選抜には、男子33名の募集に対して102名の諸君が、女子30名の募集に対して132名の諸君が挑戦した。男子の倍率は昨年よりもちょっと下がり、逆に女子の倍率は昨年よりも高くなった。

*

昨年、この推薦選抜にチャレンジした人もいるはずだが、覚えているだろうか。8:30集合で、8:50から50分間600字の小論文。その後、10:00から6名一組を基本とする集団面接があって、最後が個人面接である。

昨年の小論文は、生態系かなにかに関する理科系の課題であったような気がするが（もう覚えていない…泣）、今年は格差を問題にした、どちらかというと文科系の出題であった。モデルとなりそうな5つの国のジニ係数（値が大きいほど格差が大きい）や、その国の人々が格差に関する政策をどう考えるかといった資料を示しながら、では日本ではどうすべきなのかを、格差解消に必要な財源の問題や、それに伴う経済動向の状況などをからめながら論ずるというものであった…と、私を書くに難しそうだが、書く方向（結論）のバリエーションはそれほど多くないので、資料をうまく論の中に位置づけられれば、何とか展開の方向性は見つけられそうな出題ではあった。事実、個人面接の時に（私は男子を担当したが）、緊張を和らげるために「小論文はどうでしたか？」と質問してみたのだが、（出来はともかくとして）全員が指定字数を書き切ったと言っていた。

ちなみに、ジニ係数が大きな（つまり、格差の大きな）国とって思い浮かぶのはど

こ？ 逆に、小さな国といったら？ まあ、予想はつくと思うが、前者の代表はアメリカで、後者の代表は北欧の国々である。出題された課題文は、この国々の他に、その中間に位置する国も取り上げながら、それを3つのタイプに分類して特徴を示す、君たちの勉強にもなる文章なので、そのうち日比谷高校のホームページにもアップされると思うから、将来、慶応経済などを受験しそうな人は、目を通しておくとういだろう。

集団討論は、昨年は「高校で新しい科目をつくるとしたら？」といったテーマであったような気がするが（もう覚えていない…泣笑）、今年は「知の日比谷」に代わる「新しい日比谷高校のスローガンをつくろう」というものであった。さて、諸君ならどんなものが思いつく？ 「サクシード、日比谷！」とか（笑）。

答えについては、そのままを示すことはできないが、多かった答えの傾向には二つあって、一つは「グローバル10」や「SSH」の活動を踏まえたものであり、もう一つは「文武両道」を踏まえたものであった。もはや日比谷が「勉強」の学校（進学指導重点校）というのは当たり前なので、それ以外のところをねらうと、以上の2点が日比谷の（表向きの？）特色としてイメージされるということなのだろう。

*

しかし、受検からもう一年である。君たちはこの一年をどう過ごしたのだろうか？ そして、これからをどう過ごしていくのだろうか？